

第5回（平成22年度） 姉妹自治体交流表彰（総務大臣賞） 事例発表会及び表彰式の開催

（財）自治体国際化協会交流支援部交流親善課

平成23年5月13日（金）、ホテルルポール麹町（千代田区）において、「第5回姉妹自治体表彰（総務大臣賞）」の表彰式を、総務省との共催により開催しました。

「姉妹自治体交流表彰（総務大臣賞）」は、姉妹交流の活性化と地域の国際化の促進を目的として、平成18年度に創設したものです。日本の自治体と海外の自治体との姉妹自治体提携に基づく交流活動のうち、創意と工夫に富み、地域の振興に資するような取り組みを行っている団体を表彰しています。

第5回目となる平成22年度は、全国から15団体の推薦があり、姉妹自治体交流表彰審査委員会（委員長：中邨章・明治大学政治経済学部名誉教授）による厳正なる審査をふまえ、高崎市、金沢市、宮城・ベラルーシ協会の3団体に「総務大臣賞」を授与しました。



大使館関係者を交えて記念撮影

また、その優秀な取り組みをできるだけ多くの方に知っていただき、地域の国際交流を活性化させる上で参考としていただくため、同日同会場内で開催された「地域国際化協会連絡協議会総会」の中で、各受賞団体の取り組みについての事例発表を行いました。

今回、受賞団体から寄せられた取り組み概要と

今後の展望についてご紹介します。

姉妹友好都市間 地球市民環境会議

高崎市（群馬県）

1 高崎市の姉妹友好都市

アメリカ合衆国ミシガン州バトルクリーク市にはシリアルで有名な「ケロッグ」の本社があり、同社の日本工場が高崎市に所在することから、1981年7月1日に姉妹都市提携をいたしました。

ブラジル連邦共和国サントアンドレ市はサンパウロ州と群馬県が姉妹州県であるという関係から、1981年10月2日に姉妹都市提携をいたしました。

中華人民共和国河北省承德市は日中友好協会の相互訪問、農業研修生の受け入れなどをきっかけに、1987年10月6日に友好都市提携をいたしました。

チェコ共和国プルゼニ市は高崎市・プルゼニ市両市に所在するビール工場の交流をきっかけに、チェコ共和国（当時チェコスロヴァキア）と日本の自治体としては初めて1990年8月1日に姉妹都市提携をいたしました。

フィリピン共和国モンテルパ市は第二次世界大戦終戦後の日本人捕虜収容所などがあり、2006年に合併した旧群馬町と1994年に姉妹都市提携をいたしました。合併により姉妹都市提携を継承し現在に至っています。

2 交流のあゆみ

1990年、高崎市において姉妹友好都市の代表者による第1回高崎サミットを開催いたしました。

そこではプルゼニ市との姉妹都市提携を機に、それまでの1都市1都市同士の交流から5市協働の交流を文化・スポーツの分野で進めることが合意されました。その後、姉妹友好都市芸術祭や野球やサッカーなどのスポーツ大会を通して、交流を深めてまいりました。

1995年にふたたび高崎市において第2回高崎サミットを開催し、地球環境問題の解決のため、環境をテーマに5市間で調査研究し、1年1都市持ち回りで合同会議「国際交流環境プログラム」を開催することを共同宣言いたしました。その後1年1都市持ち回りで会議が開催され、各市が技術者を派遣し、各市の環境への取り組みの発表、視察、意見交換などを行いました。

2000年には「高崎2000年環境会議」が開催されました。そこで、これまでの5年間を振り返り、市民・企業・教育・行政がともに考え、ともに行動し、環境と人が共生する「地球市民の都市（まち）」の確立を目指すという基本理念が共同宣言され、「国際交流環境プログラム」を発展させ「地球市民環境会議」として再び各都市持ち回りで開催することとなりました。

その後、2002年～2005年にかけて「地球市民環境会議」が開催されました。2006年には高崎市において「地球市民ウィーク2006」が開催され、地球市民環境会議高崎大会、第4回高崎サミットが行われました。2011年9月には姉妹都市提携30周年を記念してバトルクリーク市で、2012年10月（予定）には高崎市で会議が開催されます。



第4回高崎サミット(2006 高崎)



各市代表による環境活動報告(2007 承德)

3 むすびに

高崎市では、世界に開かれたまちづくり戦略の一環として、この取り組みが市の第5次総合計画に取り入れられています。今後は、この活動により多くの市民のみなさまがご参加いただけるよう、成果の「見える化」を進めていきます。そして、1都市1都市の交流だけでなく、6都市が協働で行う環境をテーマとした会議を行うなどの多都市間交流を活発に進め、ことばや文化の違う人々が互いの違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域の国際化や姉妹友好都市交流を積極的に進めていきます。

ナンシー市(フランス) との姉妹交流について

金沢市(石川県)

1 はじめに

ナンシー市との姉妹都市交流は、金沢市が伝統文化、工芸、学術、さらに観光の面で共通の特徴を持つ新たな姉妹都市を模索していたところ、国際親善都市連盟（現在は(財)自治体国際化協会が業務を継承）の仲介で、両市長が東京で会見したことが契機になっています。1973年10月、ナンシー市・マルタン市長（当時）を団長とするナンシー市親善視察団が金沢を訪れた際、金沢・ナンシー姉妹都市盟約書に署名して姉妹都市関係がはじまり、今年で38年を迎えます。両市は、街の歴史的雰囲気や伝統的文化が残されている点がよく

似ており、このことが、これまでの親密な交流の実績につながっているといえます。

2 交流の内容

金沢市とナンシー市は、昭和48(1973)年10月12日の提携以後、両市の特徴である文化・芸術などを切り口とする人的な交流を積み上げてきました。

提携直後の1974年に開始した留学生相互派遣事業は、開始以来途切れることなく継続させており、これまで40人におよぶ留学生を相互に派遣してきました。また、1992年に金沢美術工芸大学と国立ナンシー美術学校の間で教員交流が活発に行われ、以来19年間継続した相互の美術関係者の交流が両市の文化・芸術の発展に寄与してきているほか、両市の民間団体間においても姉妹都市提携が縁で、大学、看護学校、新聞社、医師会等の友好交流が深まっています。

姉妹都市の交流に新たな展開として動き出したのは2008年10月でした。姉妹都市提携35周年を迎えていた両市長が連携し、日仏交流150周年を記念し、姉妹・友好関係にある日仏自治体が「地方ガバナンスと持続可能な発展」をテーマに議論を行う「第1回日仏自治体交流会議」をナンシー市で開催したのです。そして2010年5月には、第1回会議の成果をさらに発展させるべく、金沢市にて「第2回日仏自治体交流会議」を開催し、第1回目の会議を15も上回る日仏44自治体の参加を得るなど、「日仏自治体交流会議」の相互開催を通じて、従来型の1対1の自治体間交流の枠組みを超えた新しい多面的な自治体交流の関係を構築することができました。



金沢の漆技術を学ぶナンシー交換留学生

3 むすびに

これからの両市交流の目指す方向性として必要なことの一つは、互いに「共通のテーマを探る」ことであると考えています。金沢市は、藩政期以来、伝統工芸が市民の生活に息づいている「手仕事のまち」でもあります。ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が2004年に創設した創造都市ネットワークのクラフト分野で登録認定（2009年6月）を受けたことから、今後は「ものづくり」に代表される地場産業を姉妹都市交流と融合させ、産業の発展を目指す戦略的な取り組みを一層推進していきます。

地域に主権が与えられ、独自性を深め、交流を促進する中で自らが磨かれ、さらに地球規模の視点に立つことで世界平和が築かれます。そしてその主体は何よりも地域住民と自治体が担うべきであると思います。世界平和、国際協力、そして日仏自治体の友好促進に果たす両市市民と自治体の役割は大きく、今後ともお互いの特長を發揮し、支え合い発展していきたいと考えています。



第1回日仏自治体交流会議（於：ナンシー市 2008年10月）

ミンスク市(ベラルーシ共和国)と
仙台市との市民交流について
宮城・ベラルーシ協会(仙台市)

1 はじめに

ミンスク市と仙台市の交流は、1962年にスタートしました。その年仙台市を訪れたソ日協会事務局長から、姉妹都市提携の相手先として、ミンス

ク市を推薦されたことがきっかけです。その後、1973年4月6日仙台市代表团10名がミンスク市を公式訪問し、都市提携共同コミュニケを交換して姉妹都市提携が成立しました。

2 宮城・ベラルーシ協会の発足と市民交流の歩み

1987年、ミンスク市を訪問した仙台市民や労働団体の人々が中心となって「宮城・ミンスク友好親善友の会」を結成しました。同じころ、隣国ウクライナでチェルノブイリ原発事故が発生。その際、仙台市民による募金活動や医療支援などが行われたことで、交流がより活発になりました。その後、ベラルーシが独立国家となったことをきっかけに、さらに幅広い交流を目指して、1995年「宮城・ベラルーシ協会」が発足しました。

以来、「宮城・ベラルーシ協会」は、仙台市、(財)仙台国際交流協会とともに、草の根の市民交流に取り組んでいます。

そして、2011年5月、その地道な市民交流の積み重ねが高く評価され、第5回姉妹自治体交流表彰(総務大臣賞)の栄誉をたまわることとなりました。くしくも、2011年は两市交流のきっかけの一つであるチェルノブイリ原発事故から25年の節目の年です。そして、東日本大震災直後という、決して忘れることのできないタイミングでの受賞でした。

ミンスク市と仙台市との市民交流は、スポーツ交流、小学校間の交流、訪問団の派遣・受入など、多岐にわたっています。スポーツ交流では、毎年仙台市で開催されている「仙台国際ハーフマラソ



ミンスク市の仙台公園へ「友好の時計」を寄贈

ン」に、ミンスク市の選手団が、毎回参加してくれています。また、仙台市の訪問団がミンスク市を訪れた際には、両市の交流の象徴であるミンスク市中心部の「仙台公園」に「友好の時計」を寄贈したほか、桜の植樹なども行いました。

3 ミンスクで広がる仙台復興への祈り

2011年3月11日、「東日本大震災」が発生し、仙台市も甚大な被害を受けました。震災直後、ミンスク市より、いち早くお見舞いのお手紙や被災地支援プロジェクトの申し出をいただきました。ミンスク市の「仙台公園」には、被災者のために、たくさんのお花やろうそくなどが手向けられています。宮城・ベラルーシ協会の植樹した、桜の木には、被災者への励ましの言葉が結ばれています。



東日本大震災被災者のためにミンスク市民が献花している仙台公園の様子

4 さらに交流の推進に向けて

現在、ミンスク市からの被災地支援の取り組みとして、被災した仙台の高校生をミンスクの地へ招待したいとの申し出をいただいています。宮城・ベラルーシ協会としても、これまでミンスク市へ市民訪問団を派遣してきたノウハウを生かし、プロジェクトに協力しています。これを機に、両市の絆がいつそう深まり、新しい交流の輪が広がってくれることと思います。

2013年の姉妹都市提携40周年に向け、宮城・ベラルーシ協会、仙台市、(財)仙台国際交流協会の連携を一層強化してまいります。そして、今後もさらなる国際交流・相互理解の推進に努めてまいります。